

# 令和7年9月定例会一般質問

9月3日、4日に行った一般質問では、7人の議員が質問しました。  
また、傍聴者は延べ9人でした。「一般質問」は、各議員の質問や提案等により、執行機関の見解や考え方を明らかにするもので、大切な「政策論争の場」です。



なお、次ページからの一般質問の要旨は、質問者自身でまとめています。

一般質問の会議録は、各議員のページにあるQRコードからご覧いただけます。

1	やまざき えいき 山崎 栄喜	①人口減少時代に対応した村づくりを ②馬曲温泉等に対する補助金（支援金）について
2	せき たつお 関 達夫	①区の支援策を厚くしてほしい ②やまびこの丘ジュニアサッカー場ににぎわいを ③観光振興で元気を取り戻せるか ④ファームス木島平再整備について
3	まるやま くにひさ 丸山 邦久	①そばの振興策について ②湧水対策について
4	やまもと たかき 山本 隆樹	①今後の「空き家対策」の推進は
5	ゆもと なおき 湯本 直木	①（一社）木島平村観光振興局について ②（一財）木島平村農業振興公社について ③社会福祉法人木島平村社会福祉協議会について ④6月議会一般質問の答弁について、その後の対応は
6	ゆもと ゆきひろ 湯本 行浩	①若者流出と働く場の不足を踏まえた施策について ②観光から村民の福利厚生へ
7	やまうら のぼる 山浦 登 ※当日、体調不良により欠席	①村道30号線（スキー場線）の安全対策について ②小学生通学路の安全確保について ③令和6年度「一般会計」「特別会計」決算について ④地球温暖化防止と異常気象対策について
8	えだ ひろこ 江田 宏子	①「ファームス木島平再整備計画」のその後の状況について ※前日に同様の質問があったため、取り下げ ②「馬曲温泉」の施設の状況と対応について ③「堆肥センター」のあり方について ④「地域公共交通」の検討状況について

## ～「議会カフェ」を開催して～

11月9日に、初めての試みとして議会カフェを開催しました。

当日は、13人の方にお越しいただきました。議会の活動を知っていただく機会として、また、貴重なご意見を伺う場として、大変有意義なものとなりました。いただいたご意見等は議会だより令和8年1月号に掲載します。

今後も、議員のなり手不足を始めとした議会の課題等を解決するために研究・検討を重ね、よりよい村づくりに努めてまいります。議会へのご意見等ありましたら、議会事務局またはお近くの議員までお気軽にお声がけください。

# 議会

No.276



自然劇場

次回定例会の予定（令和7年12月第4回）  
※現時点の予定です。  
・開会日 11月28日（金）  
・一般質問 12月4日（木）  
・閉会日 12月12日（金）  
～5日（金）

議会に対するご意見  
をお聞かせください。

電話

☎0269(82)3111  
(内線170)

E-mail

gikai@vill.kijimadaira.lg.jp

発行：木島平村議会  
編集：議会だより編集委員会



←一般質問  
会議録

# 人口減少時代に対応した村づくりを！

山崎 栄喜 議員

## 人口が半減し、出生数は激減

昭和30年に木島平村が誕生したときに8200人を上回っていた人口は4000人を下回り、令和6年度に生まれた子どもが7人、令和7年度は10人の見込みで、少子高齢化が急速に進行している。

### 質問

岳北広域行政組合で行っている消防、ごみ処理施設、し尿処理施設、火葬場について、今後の北信地域の人口減少を踏まえ、施設の老朽化等に合せて、もっと広い範囲での共同処理を考えた方が良いのでは。

### 村長

課題があることは十分承知している。次の更新計画の段階で検討していく。

### 質問

高齢者が安心して生活できるように、高齢者集合住宅の建設を。

### 民生課長

高齢者に特化した集合住宅は見守りが必要。自立をされ見守りの必要のない方は、スキー場のマンション利用の検討を。また、サービス付き高齢者住宅の場合は、事業者による

設置および運営が必須であり、村で建設することは困難。

### 質問

下水道処理施設の広域化は。

### 建設課長

地形、地方公共団体間の料金格差、財政状況のばらつき、施設水準の違い等が課題で、広域化のメリットが想定されても実現は非常に困難。

### 質問

施設一体型小中一貫校の自治体がある。メリットとデメリット、本村で取り組む考えは。

### 教育長

メリットは、①施設を共有しているため、必然的に小中学校の連携が強化されること。②小学校から中学校への接続が円滑に行われること。③9年間一貫した生活ルールで指導

することが可能なこと。④中学校への進級時に生活環境の変化が少ないため、安心感を持ちやすいこと。⑤中学生は小学生と接することで、

上級生としての自覚を持ちやすい。また、小学生は中学生を身近に目にすることで、中学生へのあこがれを抱きやすいこと。⑥施設や設備を共有しているため、効果的な運営

が可能になり、維持コストが削減されること。

デメリットは、①小中学生が共有

する特別教室は、単独校と比べて使用する時間等が制限されることが多くなる。②小中学校における日課の時間のずれが生じること。③中学生から小学生が悪影響を受けやすくなる環境になること。④9年間同じ校舎で生活していくため、環境の変化が乏しくなること。

令和3年度に策定した学校施設長寿命化計画では、令和22年に小中学校の統合が計画されているが、施設の老朽化、準備期間等から、前倒しを視野に入れて検討する必要があると考える。

### 質問

これからの村を背負うことになる人材の育成を兼ねて、中堅・若手職員による人口減少時代に対応した村づくり研究会を作ったかどうか。

### 総務課長

職員の人材育成、自己啓発力の点でも必要性は感じる。実際に研修を受ける側の気持ちや姿勢によって効果が大きく変わり、どのような形が効果的なのか検討していきたい。

## 関係団体等への財政支援が増加

馬曲温泉、農業振興公社、社会福祉協議会は、実質的に単年度赤字決算であり、村に補助金を求めている。また、特別養護老人ホーム等を運営している北信広域連合も経営状況が厳しく、構成市町村に支援を求めているという。

### 質問

支援する前に、それぞれの団体に求めることがあるか。

### 村長

まずは経費の節減と収入の確保など自助努力を求め、そのうえで目的達成に必要な経費について精査し、実行していく。

### 質問

支援額はどのくらいになるか。

### 総務課長

令和7年度全体では、おおよそ3000万円以上になると見込んでいる。

### 質問

財源は何か。

### 総務課長

有機センター管理運営補助金に過疎対策債のソフト事業を2000万円充当している。その他、過疎対策債、地域活性化基金、福祉基金、観光振興基金、ふるさと基金などが考えられる。



←一般質問  
会議録

# 活力いっぱい集落・村づくりに

## 行政の支援を

関 達夫 議員

### 区への支援策を厚くしてほしい

#### 質問

高齢化、人口減、戸数減、働き盛りの方々も仕事に精いっぱい、区の行事、催事の運営も厳しい状況下にある。区長職も複数回行わなくてはならない。役場からの用事、依頼ごとも重く、軽くはならない。

- ①なぜ、行政交付金が315万円なのか、性質と根拠を伺う。また、交付額を増やせないか。
- ②昨年からの任意である交通災害共済を全村民公費加入とした。個人掛金分を各区に支払っていると言いつかれるのか。
- ③活力いっばいの集落村づくりを目指している。金銭以外に区への支援は。

#### 総務課長

①交付金の金額に明確な基準はなく、各区への配布物や各種取りまとめの依頼をするためのものと理解している。交付金増額の検討はないが、会議出席などの負担軽減、補助金、補助率など

の充実、拡充を検討している。

- ②事故に遭った時の救済と助け合う見舞金であり、福祉向上の意である。掛金徴収の手間の負担軽減になったことにはなるが、交付金に含まれるものではない。
- ③地区づくり推進員として職員を配置し、自主防災組織づくりの支援や補助金事業などに活動助成も行っている。

### やまびこの丘 ジュニアサッカー場にぎわいを

#### 質問

- ①今回のサッカーフェスの反省と次年度に向けての取組みは。
- ②受け入れる宿泊施設はどうか。
- ③学生の合宿補助制度の利用状況と評判は。

#### 産業課長

①参加者の拡大は、村と運営主催者の共通の課題と認識している。参加しやすい開催日程や交通費の保護者負担の軽減などを検討する。北信地域の子どもチームにも声掛けをしており、今後とも参加者拡大に努めたい。



9/15 ノルディックマラソン大会

- ②村内の宿泊施設で十分対応できる。
  - ③8月末までの利用実績は13団体で延べ宿泊者数2千人弱。今後も9月のサマーノルディック大会に合わせて多くの利用が見込まれている。
- 利用者からは「来年も利用したい」との声があり、一定の評価を得られている。

### 観光振興で元気を取り戻せるか

#### 質問

- ①馬曲温泉とスキー場の運営は、

村の経済にどう寄与しているか。村長の意向は反映されているか。

- ②観光振興局との連携は重要だが、村長の描くビジョンは。

#### 村長

- ①観光施設民営化の目的は、民間の力で「効率的で安定した運営」「サービス向上による交流人口の拡大」、「村の財政負担の軽減」を目的としており、村は事業者の主体性を尊重しつつ連携を図っている。
- ②木島平ならではの魅力を磨き上げ交流人口拡大による地域経済への波及効果、持続可能な観光を推進し、「住んでよし訪れてよし」の村をめざす。

#### 産業課長

- ①馬曲温泉は、年間約2万7千人のお客様に利用いただき、温泉総選挙で全国4位を獲得、村民雇用にも貢献している。
- スキー場は、約5万7千人が来場し宿泊や飲食などで大きな経済効果が見込まれ、交流人口の拡大、村の知名度向上にも寄与している。

このほかに「ファームス木島平の再整備計画」についても質問しました。



←一般質問  
会議録

# 村の活性化の方策を考えませんか？

丸山 邦久 議員

## そばの振興策について

### 質問

6月議会で、村長は「今、村では遊休荒廃地の活用を兼ねて、そばを約30ヘクタール作付けしている。特産物の一つとして進めている。」と答弁している。

村が推奨しているそばの栽培であるが、平成28年から、作付面積、収穫量ともに増えていない。その原因は何か。

### 産業課長

現在の農業振興公社の機械体制、人員体制では、30ヘクタールが限度と聞いている。増やすには、機械力と人の手当が必要と考えている。

### 質問

農業振興公社から「そばの乾燥機が既に能力限界で、これ以上乾燥ができない。乾燥ができれば保管はできる」と聞いた。

また、そば打ち研究会から50ヘクタールに作付けを増やす要望と提案が提出されているが、村長から「金がない」と断られたと聞いた。村長の答弁にある「しっかりと支援している。」と言えるか。

### 産業課長

農業振興公社と改めて課題を共有し、そば栽培の振興に向けた取り組みを進めたい。

### 質問

全国的に主食米の高騰でそばの作付面積の減少が予想される。

また、下高井農林高校そば部の好成績など、今、村にとってそばの振興に好条件だと考えるが、どのように考えているか。

### 村長

農林高校、地域の皆様、農業振興公社、行政が一体となり取り組むことは、そば振興に留まらず、地域の振興につながる大きな可能性を持つ。

議員の指摘のとおり、まさに今、その好機であると認識をしている。

### 質問

乾燥機の増設は、前向きに検討してもらえると考えていいか。

### 村長

現時点では、収量が多くない。現在、農業振興公社で二期作を検討している。品質の安定と、収量の増産について協力をしていきたい。

## ブナの森そば

### 質問

カヤの平でそばを栽培し、「霧下そば」に対抗して「ブナの森そば」というブランドを作ったかどうか。観光の振興にもつながると思うか。いかがか。

### 産業課長

カヤの平に通う時間と距離がネックになって、今は行われていない。それらの課題を改めて整理し、それを上回る利益があれば、取り組んでいくのも良いと考えている。

## そば店のフランチャイズ化

### 質問

木島平産そばの高付加価値化を図る方策をどう考えているか。

### 産業課長

付加価値を高めることは、地域ブランドの確立や交流人口の拡大につながるかと考えている。方策としては、

- ①品質向上、機械化の推進、栽培技術の継承を支援し、安定的で良質な原料供給を実現できる。
- ②ブランド化の取組み。「名水火山口

そば」や「農林そば」を地域の特色あるブランドに磨き上げ、地元飲食店や道の駅と連携し、消費者に選ばれる「木島平産そば」として認知度を高める。そば打ち後継者の育成も必要。

- ③そば打ち体験との連携。そばを食べるだけでなく、体験する価値を創造して発信提供する仕組みが必要。

### 質問

木島平村でも魅力的なそば店を作ることができれば、フランチャイズ化できる。村にとって大きな収益源になると思うか。いかがか。

### 村長

フランチャイズ化ではなく、そばの取扱店を増やし、ブランド化に取り組んでいきたい。

## 渇水対策について

### 質問

農家が安心して農業に従事するために、日照りの年であっても水不足にならないような対策が必要と考えるが、どのように考えているか。

### 産業課長

日照りの年であっても安定して農業用水が確保されることは、営農継続の大前提だと認識している。そのためには、既存の水利施設の維持管理を着実に行うとともに、溜め池など、将来的な水資源の安定確保に向けた取組みを進めることが重要である。



←一般質問  
会議録

## 空き家予備軍に対する 相談しやすい体制の強化を

山本 隆樹 議員

て、管理不全空家等の認定は。

### 産業企画室長

令和5年12月に施行された空家特措法の改正で、「放置すると特定空家等になるおそれのある空き家」が新たに「管理不全空家等」という位置づけで設けられた。

このような物件に対して、市区町村は認定をしたうえで、助言・指導・勧告などを行えるようになり、勧告を受けた所有者は、それに従わない場合、住宅用地の特例が解除され、固定資産税の軽減措置がなくなり、税負担が増えるものとなった。

村では、管理不全空家等の認定はまだ行っていないが、法施行前から、管理不全状態の空き家の所有者の方に、文章で是正を求めている。令和6年度は、14件に文書を発送している。

### 質問

空き家所有者への行政としての支援は。

### 産業企画室長

村では、空き家担当、移住担当として、集落支援員を1人ずつ配置し

ている。「空き家何でも相談」とし、移住定住推進係内に窓口を設けている。

集落支援員を中心に、空き家の困りごとの相談対応のほか、専門機関や事業者の紹介などもしている。村内のご自宅まで、出向く出張相談、空き家の全般的な相談等を承っている。

また、個別に条件はあるが、空き家バンクに登録することで、改修費用や家財処分、購入する方の費用や解体費への補助金制度がある。気軽に相談いただきたい。

### 質問

空き家問題は、民生課地域包括支援センター、社会福祉協議会などとも関連がある。そのようなところでの悩みや相談の中で、連携を更に深めて、空き家問題への取組みを。

### 産業企画室長

現在も、担当課以外で空き家に関する話があった場合はつないでもらっている。今後、より一層、関係機関と連携を深めて取り組んでいく。

所有者、関係者、地域の方々から寄せられた情報をもとに、村の担当者が現地へ赴き、外見を確認したり、聞き取りをしている。

また、必要に応じて、水道の利用状況、契約の有無を確認し、最終的に空き家かどうかを判定している。

### 質問

第7次総合振興計画で掲げた空き家バンクの登録率・成約率の目標達成に向けてどう取り組むか。

### 産業企画室長

昨年度策定した第7次総合振興計画の空き家対策は「空き家対策の推進」という名目で、重点プロジェクトのうち「少子化プロジェクト」「住み続けたい暮らし実現プロジェクト」にも位置づけられている。現在、令和6年度から7年度は、目標を上回る取組みができています。今後この目標をより一層進める必要がある。

### 質問

令和5年12月に、特定空家等になるおそれのある「管理不全空家等」に関する規定が新設された。村として

### 産業企画室長

空き家対策として、空き家等に関する支援制度や早期の対処のメリット等を広報や折込チラシで周知し、空き家バンクへ登録し、活用されるよう取り組んでいる。また、空き家の適正な維持管理や利用、「空き家について知ろう」等のセミナーを開催し、空き家等の予防を促している。

### 質問

しかし、空き家は個々の問題でもあり、経費の負担、相続など法律上の課題もある。村の現状は。

### 産業企画室長

令和6年度末の空き家として把握している件数は196件。また、令和6年度の空き家の流通を目的とした空き家バンクにおける新規登録件数は14件、成約件数は19件と過去最多。令和6年度末時点の空き家バンク登録物件数は17件。

### 質問

空き家の判定方法は。

### 産業企画室長

空き家となった物件については、





←一般質問  
会議録



# 限りある財源の有効活用に腐心を

湯本 直木 議員

## 木島平村観光振興局について

### 質問

3月議会の審査意見・要望事項等の観光振興局への意見に対して、村からは「地域資源の活用と地域プロモーションに取り組み、地域づくりに結び付く事業成果が得られるように事業進捗を図ります」との答弁があったが、その成果・実績は。

### 産業課長

5月24日に、郷の家を会場に「古民家で郷土料理づくりを楽しむ会」を開催。6月8日に、トレイルランニング大会「奥信濃100」のアウトイベントとして、道の駅で村の特産品抽選会を実施し、村のPRを行った。8月23日に「鬼島平ナイトツアー」と題し、夏の夜を楽しむ企画を行い、28人が参加された。

また、今後、カヤの平高原のブナ林を活用した「リトリートツアー」や冬季のスノーシューツアーなどを計画していると報告を受けている。

### 質問

令和6年度は、村から運営補助金等で総額638万円が支払われている。令和6年度も次年度への繰越金

は1053万円もある。この経過を見ると、経年的に1000万円以上の繰越金を計上している公的団体に、毎年600万円以上の補助金を支出していることに疑問を感じている。この補助金について再検討する必要があると思うが、見解は。

### 産業課長

繰越金が多額になっている要因は、令和2年から令和4年にかけて、国のコロナ対策による事業収入が増えたことによるもの。しかしながら、損益計算書では約50万円の損失が生じている。理想としては、稼ぐ力を備え自主財源を拡大させる必要があるが、現時点でその体制を整えることは容易でないため、引き続き村が運営補助を行いながら、観光振興を進めていく。

## 木島平村農業振興公社について

### 質問

令和6年度の農業振興公社への補助金は、公社総合事業などの5事業に総額6437万円。この中の堆肥センターへの補助金は、令和15年度までは毎年2500万円予定されている。農業振興公社の総合的な経営

バランスを見極め、堆肥センター以外の公社総合事業への3000万円の補助金について再検討する必要があると考えるが、見解は。

### 産業課長

公社事業の多くが農家支援を目的とした収益性の乏しい事業であることに加え、物価や光熱費の高騰により施設管理コストが増大している。このため、管理コストに見合った補助金が必要であると考えている。今後、行政が負担すべき適切なコストについて改めて検討し、補助金の在り方を見直していく。

## 木島平村社会福祉協議会について

### 質問

6月議会で村からは「適正な運営のための財政改善計画書の提出を求め、内容を精査しながら理解を得られるように対応していく」とコメントがあったが、実際このコメントどおりに社会福祉協議会が運営されているか。

### 民生課長

社協から、令和6年度の決算報告とともに、財政改善計画書の提出を受けた。決算については大変厳しい

と理解している。しかしながら、社協として業務改善への取組み、節約、サービス利用者拡大に向けた取組み等、努力の跡もうかがえ、若干ではあるものの前年より改善している状況も確認した。

### 質問

令和6年度の社協の決算は、村が委託している事業分として1491万円、このほかに県や県社協からの補助金が130万円弱程度あったが、最終的に2950万円の赤字計上となった。

今回社協から出された財政改善計画の内容と実情を照らし合わせ、村として今後、社協に対しての考え方、方向性をどう考えているのか。

### 民生課長

村として社協に委託する事業に関わる部分については、必要額をしっかりと確認、調整したうえで支出することとし、今後の介護保険や障がいのある事業会計の推移を見極めながら、今後の支援を検討していく。

このほか「6月議会一般質問の答弁について、その後の対応は」の中で、次のことを質問しました。  
・シューネスベルクの今後の対応について

・有害鳥獣対策事業について  
・地域おこし協力隊について



←一般質問  
会議録

## 住民の声やニーズを

### 丁寧に反映させているか。

湯本 行浩 議員

**若者流出と働く場の不足を  
踏まえた施策について**

#### 質問

高齢化や価値観の違い、地域の閉鎖性への対応、若い世代や子育て世代が定着しやすい環境づくり、地元での雇用機会の創出、地域全体の雇用環境の改善に向けて、村としてどのような施策を講じているか。

#### 総務課長

村では、地区づくり懇談会や村民アンケート等を通じて現状把握に努めており、価値観の違いや閉鎖性に関する課題も認識している。負担軽減や移住者向け情報提供など、地域に入りやすい環境づくりも進めている。

#### 質問

**事業の将来性や収益性向上に向け、専門家の活用や支援体制の整備は進めているか。**

#### 産業課長

後継者不足の背景には収益性や将来性への不安、さらには、働き方としての魅力といった要素が関係してこることも村として十分

認識をしている。事業承継に対する不安を解消し、円滑に行われるための支援、個別相談会や事業承継セミナーを、県・商工会・関係機関と連携して開催している。この中で、収益性を高めるための方策や資金支援を含む多面的な支援を紹介している。

#### 質問

**企業誘致に依存しない雇用創出において、想定する分野や所得向上・経済循環の手段は。**

#### 村長

本村の地域特性として、農産物の生産に加えて、加工や販売までを一体的にやってみようことので付加価値を高めて、若い世代にも魅力を感じられる農業経営のあり方が考えられる。

滞在型観光の推進に加えて、空き家を活用した宿泊や飲食店の起業支援、デジタル分野での創業支援、村内企業や飲食店が抱える

後継者対策を進めていくこと、地域資源を活かした雇用創出を通じ、循環型で持続可能な地域経済の実現をめざしていく。

**観光から村民の福利厚生へ**

#### 質問

観光による地域活性化には一定の限界があると感じている。今後は観光にかけてきた予算や人的資源を、地域内での交流促進や高齢者・子育て世代への福祉施設の充実など、村民生活の質を高める施策へ重点を移すべきと考えるが、村民の声やニーズを反映させる仕組みの具体策は。

#### 村長

観光振興の取組みは、農産物のPRや移住定住に向けた子育て環境の発信なども含み、村の魅力発信として実施している。また、学校給食無償化やシニア世代団体活動補助金など、福祉の向上にも力を入れ、今後必要な施策に予算と労力を配分していく。

#### 総務課長

地区づくり懇談会やホームページなどで意見を聞く場がある。また、第7次総合振興計画でも村民アンケートを実施しており、村民の声を施策や計画に反映する取組みを行っている。

#### 質問

観光資源に限りがある本村において、暮らしに根ざした施設が観光的役割も果たす可能性があり、外から内への政策転換として意義があると考える。ケヤキの森公園を含む既存施設を活用した複合施設の整備について、住民の声を丁寧に反映させながら、住民参加型で検討する考えや可能性は。

#### 村長

公園は健康づくりやスポーツ、憩いの場として、主に村民が楽しめる場として整備を進めているが、スポーツ合宿などで村外からの来訪もあり、結果的に観光にもつながっている。村民が楽しめるよう充実することで、観光施設としての活用が増えることはいいことであるため、できるものは観光につなげていきたい。

#### 産業課長

現在、観光ビジョンの策定を進めている。村民から公募した検討委員の意見を反映する形で、住民の声を聞く取組みを進めている。

#### 質問

**村外に対する観光誘致から村内への政策転換はあり得るのか、内側の充実についての考えは。**

#### 村長

観光や農業は手段であり、最終的な目的は、村民生活の向上。



←一般質問  
会議録  
江田 宏子

# 想定される問題や課題を先送りせず、 早急に解決に向けた研究・行動を！

江田 宏子 議員

## 馬曲温泉の状況と今後の対応は

3月に内湯の梁が崩落し、現在は露天風呂のみの営業。その後の調査で、いこいの家や梨の木荘も地盤沈下による建物の傾きが確認された。

### 質問

- ① 運営継続の場合に必要な対応は。
- ② 運営継続の場合の支援内容は。
- ③ 現在の光熱費の概算は。
- ④ 村民の利用率は。
- ⑤ 今後の検討は。

### 産業課長

①「内湯棟・いこいの家・梨の木荘の解体撤去」「露天風呂に洗い場や寒さ対策等、内湯機能の追加」「燃料費削減のためのボイラー更新」など。

概算費用は、  
・解体撤去…約3000万円  
・ボイラー更新…約1億円

・内湯機能追加…約50～70万円  
財源は補助事業や地債の活用等。

② 3月までの継続に向け、9月補正予算に1000万円を計上。令和8年度は2000万円程度を想定。

③ 年間約2300万円。内訳は重油代約1430万円、源泉の湯湯・送湯ポンプの電気代約600万円。

④ 昨年度の入湯者2万7485人中、村民利用は3635人(約13%)

### 副村長

⑤ 広報10月号で現状を周知。地区懇談会などでも説明したうえで、意見を聞きながら方向性を検討していく。

## 堆肥センターのあり方の検討を 早急に

稼働開始から24年が経過し、施設の老朽化が深刻化している。

村は令和15年度まで現施設を維持する方針で、来年度、長寿命化工事を実施し、令和10年度に今後の方針を示す予定としている。

多額な経費、過酷な労働環境、人材確保の困難さも踏まえ、施設のあり方自体、早期に見直す必要があり、議会からも複数回指摘している。

### 質問

- ① 過去の経費、今後の経費の試算は。
- ② 長寿命化工事の内容は。
- ③ 代替策(広域連携・民間委託等)の検討状況は。
- ④ 利用者アンケートで、必要度が低い場合、村で多額な費用をかけての施設維持や新施設建設への疑問が出ることも考えられるが、今後の

あり方について、調査結果を踏まえて判断する考えはあるか。

### 産業課長

① 過去10年間で約3億5900万円(修繕費約5800万円、運営費約3億100万円)。

今後9年間(令和7～15年度)は約4億8400万円(長寿命化工事約1億3700万円、運営費約3億4700万円)を見込む。

財源は一般財源に加え過疎債を活用する方針。

② 現在、実施設計のための調査中で詳細は未定。鉄骨の防錆、電気設備更新、天井・壁の崩落防止を予定。長寿命化工事を行えば、それ以上の工事は必要ないと理解している。

③ 現時点では現施設の保守対応が中心で、代替策は検討していない。今後は、村単独整備のほか、近隣自治体との広域連携、民間委託など、村が施設を持たない選択肢も含め比較検討を進める。

④ 村の農業振興、環境に優しい農産物を生み出す木島平のイメージ、そのシンボリックな施設であり、いろいろな意味を考えながら、最終的な方向を導き出したい。

### 村長

① 委託料増額に伴う対応策の検討状況は。

② 将来の公共交通のあり方は。

③ 公共ライドシェア導入の課題は。

④ 委託困難時の代替策は。

### 建設課長

① 必要経費ということで契約している状況。

② 他地域では、公共ライドシェアへの移行例が増えており、先進事例の情報収集や研究を進める。

③ 安全確保、運行管理、ドライバー教育など課題が多い。現行の委託を公共ライドシェアに変更しても、経費や仕組みに大差なく、導入のメリットが少ない。

④ 交通事業者と協議しながら進めるが、経費を削減すると、サービス内容を見直すことになる。

安定運行のため、地域に合った公共ライドシェアの活用も研究する。

## 持続可能な「公共交通」のあり方の 研究・検討を早急に

デマンド交通とシャトルバスは、民間バス事業者に委託して運営している。昨年度の委託料約1780万円に対し、今年度は約3300万円と大幅に増加。契約期間も3年から1年に短縮され、今後の運行体制や財政見直しに不安がある。議会でも早期の見直しに向け、審査意見を出している。

### 質問

① 委託料増額に伴う対応策の検討状況は。

② 将来の公共交通のあり方は。

③ 公共ライドシェア導入の課題は。

④ 委託困難時の代替策は。

### 建設課長

① 必要経費ということで契約している状況。

② 他地域では、公共ライドシェアへの移行例が増えており、先進事例の情報収集や研究を進める。

③ 安全確保、運行管理、ドライバー教育など課題が多い。現行の委託を公共ライドシェアに変更しても、経費や仕組みに大差なく、導入のメリットが少ない。

④ 交通事業者と協議しながら進めるが、経費を削減すると、サービス内容を見直すことになる。

安定運行のため、地域に合った公共ライドシェアの活用も研究する。